



## 貧困研究会「第10回研究大会」開催

“子どもの貧困”について、ひとり親家庭や  
堺市が調査した「生活保護と大学進学」などの自治体調査から見える課題を検討

【日時】2017年12月9日（土） 13：30～16：45

10日（日） 9：00～15：40

【会場】大谷大学 慶間館2階 K304教室他

大谷大学(所在:京都市北区小山上総町/学長:木越 康)は、貧困に関する調査・研究を目的とする貧困研究会(Society for the Study Poverty)と共催で「第10回研究大会」を、2017年12月9日(土)・10日(日)の2日にわたり開催いたします。

貧困研究会「第10回研究大会」の共通論題は「子どもの貧困の現状と政策的課題の検討」です。

子どもの貧困対策法が2014年1月に施行されて3年余りが経過しました。子どもの貧困率やひとり親の貧困率の高さが明らかになり、子どもの学習支援事業や子ども食堂などの取組が全国に広がりました。また、児童扶養手当(多子加算)の増額、給付型奨学金の創設など制度の一部改善も見られます。

他方で、子どもの貧困についても最後のセーフティネットである生活保護においては、生活扶助基準(2013年～)、住宅扶助基準(2015年～)等が減額されました。現在、生活困窮者支援法と生活保護法、生活保護基準についての、2018年度からの一体的な「改革・見直し」を目指して、それぞれの関係する審議会等で検討が進められています。

本大会初日は、ひとり親家庭に焦点をあてて、生活保護世帯の子どもたちの置かれている状況や、子育てについての生活保護基準の在り方などを検討します。貧困問題研究の第一人者、首都大学東京の阿部 彩教授らが研究を報告します。

2日目は、大阪府立大学・嵯峨嘉子准教授が「大阪府 子どもの生活に関する実態調査から見える子どもの貧困」や、名古屋市立大学の講師・桜井 啓太氏が「生活保護と大学進学:生活保護世帯の大学生等生活実態調査(堺市)から」など、自治体調査や施設から見た子どもの貧困について報告し、課題を検討します。

また、自由論題報告では、本学の志賀信夫助教が「社会的排除と貧困」をテーマに発表します。

大谷大学は、2018年4月、開設100年以上の歴史の中で初めてとなる複数学部化を行い、文学部・社会学部・教育学部の3学部体制へ移行します。新たに開設する社会学部コミュニティデザイン学科には社会福祉学コースが誕生。福祉や介護の現場に足を運び、どのような問題がなぜ起きているのかを調査。同時に福祉の専門力を身につけ、課題解決に必要な社会の仕組みを学びます。

<本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先>

大谷大学 企画課 安井・平岡 Tel: 075-411-8115 FAX: 075-411-8149

大谷大学広報デスク (プランニング・ポート内) 澤田・井上・福嶋 Tel: 06-4391-7156 FAX: 06-4393-8216

※恐れ入りますが、ご取材いただける方は、12月8日(金)までにFAX返信用紙にてご連絡をお願いします。

## 【貧困研究会 第10回研究大会概要】

- 日時 2017年12月9日(土) 13:30~16:45、12月10日(日) 9:00~15:40
- 場所 大谷大学 慶聞館2階 K304教室他(京都市北区小山上総町)  
※京都市営地下鉄烏丸線国際会館行「北大路」駅下車徒歩5分  
(JR京都駅から乗車時間約13分)

### ●12月9日(土)13:30~16:45

#### 共通論題:子供の貧困の現状と政策的課題の検討

##### —PART1 ひとり親家庭を中心に—

司会 吉永 純(花園大学)

報告

阿部 彩(首都大学東京)

「ひとり親世帯の子どもの複合的不利:東京都「子供の生活実態調査」から」

林 明子(大妻女子大学)

「生活保護世帯の子どもの見えにくい実状」

岩永 理恵(日本女子大学)

「生活保護における子どもと保護基準 —最近の基準部会・母子加算をめぐる議論を踏まえて—」

### ●12月10日(日) 9:00~11:40

#### 共通論題:子どもの貧困の現状と政策的課題の検討

##### —PART2 自治体調査や施設から見た子どもの貧困—

報告

嵯峨 嘉子(大阪府立大学)

「大阪府 子どもの生活に関する実態調査から見える子どもの貧困」

桜井 啓太(名古屋市立大学)

「生活保護と大学進学:生活保護世帯の大学生等生活実態調査(堺市)から」

木塚 勝豊(平安徳義会養護園施設長)

「児童養護施設の子どもたちの自立と貧困」

### 13:00~15:40

#### 自由論題報告

志賀信夫(大谷大学)

「社会的排除と貧困」

今野晴貴(一橋大学大学院生、NPO法人POSSE)

「相談事例から見る生活困窮と労働問題の相互関係」

渡辺寛人(東京大学大学院博士課程、NPO法人POSSE)

「貧困バッシングの構造」

大山典宏(立教大学大学院生)

「生活保護制度における自治体ローカル・ルール

—全国都道府県及び政令指定都市における運用マニュアルの分析から—」

掛川直之(大阪市立大学/日本学術振興会)

「出所者支援における既存の社会資源の活用:自立準備ホームの課題と展望」

白波瀬達也(関西学院大学)

「あいりん地区に見る貧困の地域集中の功罪」